

腹腔鏡手術について

健康
通信

常陸大宮済生会病院 外科医員 津久井 秀則

【腹腔鏡手術とは？】

腹腔鏡手術は、臍部（おへそ）の周囲から直径2～10 mmの内視鏡を腹腔内に挿入し、手術を行う空間を作るためお腹の中に炭酸ガスを注入、そこからスコープや器具を入れてテレビモニター上に映し出された映像を見ながら手術を行う術式です。一般的な開腹手術は、15 cm前後の皮膚切開で行われますが、腹腔鏡手術は1 cm前後の皮膚切開3～4箇所で行われます。したがって、腹腔鏡手術は皮膚切開創が開腹手術よりも少なく、美容的にも優れ、手術後の痛みも開腹手術に比べ軽いのが特徴です。そのため、術後の回復が早く、入院期間の短縮と早期に社会復帰できることが最大の利点です。

【腹腔鏡手術のメリット】

1. 手術の傷が小さく、美容面で優れている。
2. 術後の痛みが開腹手術よりも少ないため、術後の回復が早い。
3. 傷の感染、癒着などのトラブルが少ないため、腸閉塞をおこしにくい。
4. 拡大された映像で手術するため、手術部位がよく見える。
5. 出血量が少ない。

【腹腔鏡手術の問題点】

1. 通常の開腹手術に比べて手術難度が高い分、手術時間が長くなることが多い。
2. 歴史の長い開腹手術に比べると執刀医による技術の差が出やすい。

【腹腔鏡手術の適応】

全ての手術を腹腔鏡手術で行えるわけではありませんが、優れた道具の開発や技術の向上により、少しずつ手術の範囲が広がってきています。日本では1990年に胆のうを取る内視鏡手術（腹腔鏡下胆のう摘出術）が行われ始め、現在では腹腔鏡下胆のう摘出術は標準的な手術となっています。また虫垂炎などの腹膜炎でも腹腔鏡手術で治療し、体への負担が小さくなるようにしています。各種ヘルニアでは、鼠径ヘルニア（脱腸）の腹腔鏡手術を10年以上前から行い、術後の痛み、体への負担、神経痛などの合併症、再発の少ない治療方法となっています。悪性腫瘍（がん）では、胃がんや大腸がんの切除といったより高度な技術を必要とする腹腔鏡手術も約20年前から徐々に始まり、増えてきています。

当院でも積極的に腹腔鏡手術を取り入れております。お気軽にご相談ください。

※救急受け入れの人数を月別に表しています。（休日・時間外を含む）

常陸大宮済生会病院 救急患者受入状況

